



本学会元会長・名誉会員 中瀬 崇先生は
平成 30 年 7 月 24 日逝去されました。
謹んで弔意を表します。
日本微生物資源学会

中瀬 崇先生 御略歴

1. 経歴

昭和 37 年 (1962 年) 3 月	鳥取大学農学部卒業
昭和 37 年 (1962 年) 4 月	味の素株式会社 (中央研究所) 入社
昭和 54 年 (1979 年) 9 月	農学博士 (東京大学)
昭和 56 年 (1981 年) 10 月	味の素株式会社中央研究所主任研究員
昭和 57 年 (1982 年) 9 月	理化学研究所研究員 (ライフサイエンス培養生物部)
昭和 58 年 (1983 年) 7 月	同部分類室長 (副主任研究員)
昭和 63 年 (1988 年) 4 月	同部微生物系統保存室長
平成 元年 (1989 年) 4 月	同ライフサイエンス培養生物部長
平成 12 年 (2000 年) 3 月	理化学研究所定年退職
平成 14 年 (2002 年) 1 月	タイ BIOTEC 研究員 (2005 年まで)
平成 17 年 (2005 年) 5 月	(独) 製品評価技術基盤機構 NBRC 顧問 (2011 年まで)
平成 30 年 (2018 年) 7 月 24 日	逝去

2. 学会活動

日本微生物株保存連盟 (現日本微生物資源学会)

昭和 60 年 (1985 年) ~ 平成 5 年 (1993 年) 幹事

日本微生物資源学会

平成 5 年 (1993 年) ~ 平成 9 年 (1997 年) 会長

World Federation for Culture Collections (WFCC)

1992 ~ 1996 年 Executive Board Member

中瀬 崇先生を偲び

Obituary: Dr. Takashi Nakase (1939-2018)

本学会の初代会長（名誉会員）、理化学研究所微生物系統保存施設 Japan Collection of Microorganisms (JCM)（現：理化学研究所バイオリソース研究センター微生物材料開発室、JCM）の部長（主任研究員）であり、酵母分類学において世界有数の研究者であった中瀬 崇先生は、平成 30 年（2018 年）7 月 24 日に逝去されました。

中瀬先生の本学会に対する最も大きな業績は学術団体としての日本微生物資源学会を立ち上げ、その初代会長に就任し、学会活動を軌道に乗せたことにあります。日本微生物資源学会の原点は日本微生物株保存機関連盟であり、これは文部省（当時）が 1951 年に行った我が国の微生物株の保有状況の調査の際、中心となった保存機関が機関間の連絡を目的として設立されましたが、同連盟は 1974 年、個人会員にも門戸を広げ日本微生物株保存連盟 (JFCC) に再編されました。1993 年、中瀬先生は同連盟の組織、規程などを整備し、名称を日本微生物資源学会にあらため、日本学術会議の登録団体にしました。

中瀬先生は、1962 年鳥取大学農学部をご卒業ののち、味の素株式会社に入社されました。同社中央研究所において、後の東京大学教授であり、また JCM の初代部長でもある駒形和男先生のもとで、冷凍食品の変敗要因の一つである酵母の分離と同定を含む研究を開始されました。その後、*Hansenula* 属、*Hanseniaspora* 属、*Pichia* 属、*Debaryomyces* 属などの DNA 塩基組成を次々に解析し、発表されました。現在は属の再分類が進み、酵母の属も増えましたが、当時の分類体系の子囊菌系および担子菌系酵母のほぼ全体をカバーする膨大なデータを発表されました。それにより、当時断片的だった酵母の DNA 塩基組成の分類学的意義が明らかとなり、子囊菌系および担子菌系酵母の両方を G+C 含量からみた包括的特徴づけは、まさに世界に先駆けた研究成果となりました。この業績により、1979 年に東京大学から博士号を授与され、1981 年には中央研究所の主任研究員に就任されました。

1982 年 9 月からは、理化学研究所のライフサイエンス培養生物部に研究員として着任されました。その後、分類室長（副主任研究員）、微生物系統保存室長を経て、1989 年 4 月には JCM の Director であるライフサイエンス培養生物部長（主任研究員）に就任されました。部長在任中の大きな業績として、1993 年の JCM の液体窒素保存設備（超低温微生物保存棟）の建設と、1995 年度から 5 年間の科学技術振興調整費による多国間型国際協力プロジェクト「アジア地域の微生物研究ネットワークに関する研究 (Asian Network on Microbial Researches, ANMR)」があります。これらを通じて、アジア 10 カ国の保存機関とネットワークを構築し、微生物分類研究者を育成してきました。酵母研究においても、国際共同研究でアジアの微生物多様性を示すとともに、リボソーム rRNA 遺伝子解析の導入など、先駆的研究で JCM を国際的に注目される微生物系統保存機関へと発展させました。

理研を定年退職後は、日本学術振興会の研究協力者海外派遣事業により 2002 年から 3 年間、タイ・バンコクの国立遺伝子工学・バイオテクノロジーセンター (National Center for Genetic Engineering Biotechnology (BIOTEC)) でタイの自然環境から酵母分離と分類学的研究を通じて酵母分類学研究者の育成から BIOTEC カルチャーコレクションの運営まで幅広く研究と指導をされました。その間もタイのカセサート大学やタイ科学技術研究所 (TISTR)、日本、中国、台湾の研究所と国際共同研究を行う等、国際的な活躍をされました。帰国後、2005 年から 7 年間は（独）製品評価技術基盤機構バイオテクノロジーセンター (NBRC) において、顧問として指導にあたられました。NBRC においても保存機関としての酵母の収集、保存と分類学的研究の人材育成を行うとともに、タイとの連携にも貢献されました。

中瀬先生は微生物系統保存事業で国内、国際ネットワーク構築に貢献されましたが、日本を代表する酵母分類学の世界の第一人者でした。酵母の分類に関する研究を中心に発表された原著論文は 263 報にものほります。中瀬先生が育てた酵母分類の研究者は日本だけでなく、アジアに広がり、既に各国で微生物学分野の第一線で活躍しています。酵母の分類学の標準の書である、*The Yeasts, A Taxonomic Study* では、ご自身の執筆だけではなく、中瀬先生に指導を受けた研究者が多く分担していることから影響の大きさがわかります。もうすぐ 40 周年を迎える JCM も世界の微生物リソースセンターの中核機関に成長しました。日本微生物資源学会は日本微生物系統分類研究会と合流し、系統保存事業と微生物分類学の活性化に相乗効果が期待されます。中瀬先生が尽力し、形成された微生物資源の研究基盤を維持し、更に発展させていくのが日本微生物資源学会の責務であると考えます。

(鈴木健一朗・高島昌子)